

出句用紙(番号 /)

作者名

桃

〇〇	〇	〇〇	〇	〇
母のこゝの御霊屋開く秋初め	町並は寂しからずや百日紅	鳥声 あうせい に夜明け知りたる帰省 きせう の日	睡蓮 すいれん の咲くだけ咲いて身は閑 かん	アイスクリーム舐めて哲学的思考

出句用紙(番号)

2

作者名

長陽

〇 〇 〇 〇 〇 〇			〇 〇	
灼けついた列車熱ごと駅に入る	八月の雨染み渡る千枚田	夏の夕一点見つむ理由なし	炎夏の背筋正しき女かな	亜熱帯気候夜明けの秋立てり

27
8/10
南柯

南柯句会

出句用紙(番号 3)

作者名 わこ

〇〇〇	塩こうじ粒のかと取れ今朝の秋
〇	寺を継ぐ笠置サイダーほの甘し
〇〇〇	サイダーや全細胞を喝采す
〇	冷奴うんと自分を甘やかす
	くり上がり知る子の凜々し夏休み

出句用紙 (番号 4)

作者名…(安藤) 英彦

	たはむ 戯れて共に山下る秋茜 お
○	ふうけつ しば 雪溪の風穴暫し身にはらむ
	水頭の恵み虹立つ暴れ川
◎	「かなかな」と日暮れ切なし山の宿
○ 兼題句	せきらら 赤裸裸に時は進みて秋立ちぬ

出句用紙(番号5)

作者名 近藤和草

	ちくせん 廿二仙の奥州小紋 宵涼し
	ち 夏の果小さきむくろで遊ぶ猫
◎ ○	せんこはなび おっおっ と線香花火のひとりごと
○	ひぐらしや妹と見た再放送
○ ○	立秋や絵葉書えらぶ手をとめて

⑥

出句用紙

作者名 藤ふとく

	○	○	○	兼
涼ーさやズズッと蕎麦を啜る音	翔平の一発暑気を払いけり	遠近の家族の集ふ墓参かな	執筆に集中を欠く残暑かな	初秋やすぐいすっきり湯浴み後

出句用紙(番号リ)

作者名山 下疾風

⑧

今日の秋とおりがかりの近江富士

おろがかり 近江 富士

○○○

下町や家並にぎわす青簾

や なみ

夜もすから真昼しずかに竹婦人

つえ

こやし

白服の杖で向き指す好好父耶

や ほろり き たく

盃蘭盆会わが家の仏帰宅せり

○

南柯句会

出句用紙(番号 あ)

作者名 福田 洗弥

	花萎れ 庭より二束 千日紅
○	秋立つや 煙の香る 商店街
	水切りの 白菊に 沁む 澄んだ水
	姪っ子の 成長微笑む 墓参り
◎	天仰ぐ 我を忘れて 盆踊り

新酒

南柯句会

出句用紙(番号 9)

作者名 鮫島しょうん

○	立秋や灯しひとつの消えし湯屋
○○	ラジオからの絶叫止まり蚊遣杓
○	どの声か身内か庭の蟬の殻
	夜の秋妻に罪なる梅酒の杓
	とうきびのひげ又絡みうざい奴

出句用紙(番号10)

作者名 平草

〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
避暑求め行くふる里に避難指示	立秋のめが身を越へる影法師	去る村を峠で眺む晩夏行	出始めの桃の堅きや野の香り	八月の十六日空を仰ぐ

出句用紙(番号) 11

作者名 へちま

行々

とらふ

秋ふ

天

〇〇

〇〇		〇〇	〇〇	〇
立秋の雨蒸面を解き放つ	八十年の遠き八月の日本に	山頂を翫ぐ夏霧青き空	それぞれの水の夏へ分岐の京都駅	青田波広ごり鷺は動かざる

出句用紙(番号 12)

作者名 白井桃紅

八月のクルーズ船の白さかな

送り火の護摩木に記す願いかな

墓参り母の歩みに合わせけり

力投も虚し 涙の夏終る

立秋や電池切れたる吾子眠る

出句用紙(番号 13)

作者名 上 窪 泰 子

	☆ ○		○	兼題
夏休み夫婦だけ行く休暇村	果マしなき海岸線や夏の旅	鮎食ベ ^{こまかい} る故郷の山河想い馳 ^{こまかい} せ	均等に鮎の塩焼きドラム缶	立秋や湧雲 ^{わきんも} ゆきて空高く

出句用紙(番号 14)

作者名 関 洋子

○ ○○○	○		○○	
二坪の庭を賑はす水遊び	とりあへずビール荷ほどき終へぬまま	参道の氷の旗に釣られ行く	語り部を真直ぐ見つめる原爆忌	靴紐を結び直すや今朝の秋

201 6:1 (24) 5 T (15)

出句用紙(番号)

作者名

○	つた術と在りし看板天の雨甲
④	立秋の夕色ハコ角は
	念の長の返事短く春灯し
丁	秋の夜や田力の恋も軟正は
	比土は大悟決着となる春灯し

のこり丁

南柯句会

出句用紙(番号 16)

作者名 真一

秋たちぬ五山に揺らぐ火かな

ほむら

燈花会の炎映して浮見堂

ひと

真っすぐな人生き平し立葵

米河期⁷といふ名の世代酷暑来る

バル巡るバスクの美食秋ちかし

南柯句会

出句用紙(番号 17)

作者名 米田よし

○	立秋や寺影のびやく同じ朝 いせい
	伊吹山飛蝗といたち街遠し はった
	夏草や蜘蛛塚語る声涼し
○○●	熱帯夜仕込む秘伝のソースかな スーすいし
	赤青と業因映す戎橋

18 張

出句用紙

作者名 宮本こぼ

4 「プカプカ」の歌生まれた街の溽暑

4 電柱の陰一本分の避暑地

立秋のニンニク抜きの餃子かな

4 適塾ふんどしの禪一丁の溽暑かな

四条涼み看板のない簞店はうき

出句用紙

作者名

富野香衣

かえ

19

ぶぶ漬けをかきこみしより祭囃子

制服を脱いで少女は熱帯魚

翡翠の羽音水面を穿ちけり

君の嘘解毒としてのソーダ水

秋立つやビスクドールの目の窪み

出句用紙

作者名 横田清史

熟すまで待つてバナナを剥きにけり

白玉を小さい匙で抄ひをり

○ 水玉を弾き転がすキャベツの葉

○ 永遠の賛否両論原爆忌

立秋や朝から茶漬け啜りをり

出句用紙(番号 21)

作者名 ひろし

○	立秋や 誼わみたように雨降らす
○	路地裏や 揺れぬ風鈴 日に踊る
	夏旅行 両手にフキン サイゼリヤ
○○	エアコンの嫌いな妻の 冷たい目
	人倒す 気候で 育つ 稲穂かな

出句用紙(番号

22)

作者名

しゃほん

立秋や雁皮紙に染む黒の色	墨磨れば三畳間にも秋立ちぬ	新秋や絵文う子でつづき艶書来る	腰窓心の文机墨色に立秋	細筆の艶書に立秋美人の図
--------------	---------------	-----------------	-------------	--------------

出句用紙(番号 23)

作者名 二屍

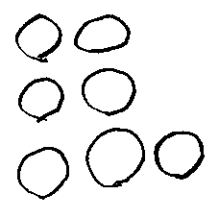
目から塩吹くかもしれぬ火火天下

甘ーファーに青の海あり空のあり

⑤
蟬しぐれ土に還りし骸あり

秋立つやささらさらと風の立つ

立秋や朝のテラスにダーズリン



脇道の変わらぬ信号油照^{あぶらでり}
立秋の木漏れ日流す大和川
夕暮れの川面を巡^{めぐ}る鬼やんま
団扇手に奈良公園の灯りかな
アスファルト陽炎^{かげろう}揺れる猛暑かな

出句用紙(番号 25)

作者名 山崎 たか

嘘でしょう 顔の涼しき無奸妓はん

船頭はボニーテールの夏の雲

梅や花菱の流山に西足髪しあり

立秋や夫の并当肉おあめ

立秋やシトラス系からムスクの香

	ソフトクリームゆきりと溶けて許しけり
○	線香花火おしまい際の匂いかな
○○○○	新涼や一度で通る針の穴
○○○○	玄關に椅子ひとつ置く終戦日
○○	危 あや うげな少女の鎖骨秋はじめ 兼